日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
教会教育部

教会学校　教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1．みことば

祈りながら今週のテキスト（聖書箇所）を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、憶えましょう。

2．主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例　〇：イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。（×：カナの婚礼と奇跡）

3．教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4．メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。
◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団　教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教　師　ノ　──　ト

週課	第一年　第一〇課　第一週
単元	創世記・3
テーマ	神さまに信頼して従う
タイトル	アブラハムの出発
テキスト	創世記 12:1-8
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　ヘブル 11:8

AG 日曜学校教案参照箇所
　小下 2 巻 1 題 7 課

メモ(情報・例話など)

　今週のメッセージは、子ども達にとって未知の世界への出発です。神だけを信じ頼り、一歩踏み出していくチャレンジの時ともなります。それゆえに、神の愛と救いの計画について、教師がはっきりとしたイメージを持って語っていくことが大切です。暗いメッセージになったり、知らない世界に連れて行く怖い神のイメージだけが印象に残ったりしないように心がけましょう。神は子ども達を愛され、一人一人に素晴らしい将来と希望の計画をもっていることを強調しましょう。

❑導入　興味を起こす質問をしましょう。

　今回のテキスト内容は「神様に信頼して従う」ということがテーマになっています。そこで例話は「この後の話はどうなるの？」といった、未知の世界に対する期待感を持たせることで、興味を起こさせることを目的としています。

❑ポイント1　神様はアブラムに、神様を信用して従いなさい（ついてきなさい）といわれました。（1節）

　神はアブラムに「あなたの土地・親族・家を離れて、私が示す地に行きなさい」と言われました。あなたも住み慣れた場所や親しい親族から離れて知らない土地にいくことを想像してみてください。簡単なことではありません。しかも、このとき行き先はまだはっきりわかりませんでした。多くの財産（羊などの家畜）を持っていたアブラムにとって、とても難しい決断であったはずです。

✎今日の箇所は12章から始まっていますが、実際は11章の31節から始まっています。（教師はよく読んでおきましょう。）低学年がいる場合は、ウルからの話になると混乱しますので、ハランからの出発とするのが分かりやすくてよいでしょう。アブラムは、ハランにしばらく定住しました。そこでもアブラムは祝福を受けて繁栄し、多くの財産を設けました（5節より）。創世記11章では、父テラが神に声をかけられたようにありますが、使徒7：2－3から、実際にはアブラムに声をかけられていたことがわかります。小学校上級生や中学生の場合は、現在もある歴史的建造物（ジッグラト遺跡）の地としても紹介すると興味を持つでしょう。（聖書辞典参照）

☞アブラムの旅路（肥沃な三日月地帯）をつかってスゴロクを作ると楽しめます。低学年用と高学年用とがあると良いでしょう。内容は先生の工夫次第です。アブラムの決断がどれほどすごいものだったのかが、子どもも大人も良く分かります。

❑ポイント2　神はアブラムに特別な計画と祝福を用意していました。（2－5）

　それでもアブラムは神の声に従い父親と住んだ家を離れる決断をしました。それは、自分の思いの通りではなく、神さまの思いに従う決心をしたということです。アブラムは神を信頼して従ったのです。神はアブラムが示す地に行くなら、素晴らしい祝福を与えることを約束しました。それはアブラムの家族（子孫）から、真の神を信じる素晴らしい国と民族を、新しい場所（カナン）で作る約束でした。（2節）　またア

ブラムだけではなく、彼の友となる全ての人が、祝福される約束をもしてくださいました。（3節） アブラムは神の権威によって、地上の全ての民族人々に祝福を運ぶ人として選ばれたのです。

その約束の後に、アブラムはすべての持ち物をまとめ、彼の家族と僕たち、甥のロト（ロトの家族と持ち物や僕たちは、アブラムとまた別にありました。）をつれて神の示す地に出発したのです。この時アブラムは75歳でした。この時点でもアブラムはどこに行くのかまだよく分かっていませんでした。このことからもアブラムが本当に信仰によってのみ出発したことがわかります。（ヘブル11：8も参照）

✍暗唱聖句（ヘブル11：8）には、「どこに行くのかを知らないで」とありますが、実際は「カナンの地に行こうとして出発した。」（創世記12：5）とあります。つまり、彼らはカナン方面に行くことは分かっていました。しかし、カナンは一人の人間（アブラム）には大きすぎるため、具体的にどこが神様に示された土地なのか分からずに出発したようです。カナンは、アブラム一人のためにあるのではなく、未来に誕生する神の選民であるイスラエル民族が相続する土地なのです。そして、そのイスラエル民族から救い主イエス・キリストが誕生するのです。

✎理解力が深くなっている上級生や中学生には、アブラムの祝福と自分たちとの関係を話すと良いでしょう。アブラムの祝福は、イスラエル民族の誕生からイエス様の誕生につながり、イエス様の誕生は私達の救いにつながっていることを教えます。このことにより、アブラムの決断したことの重要さと自分との関わりが見えてくるでしょう。また、時に一人の信仰者の決断（神様に従う）が、大きな未来の祝福につながることを教えると良いでしょう。

❑ポイント3　アブラムは約束された地カナンに着きました。(5-8)

アブラムたちはハランから、500キロ以上の旅をしてカナンにつきました。当時は交通も発展していなかったので、75歳のアブラムには決して楽な旅ではなかったはずです。どこへ行くのかさえわからなくても神を信じて旅をしてきたアブラムに、神はこの地全てがアブラムとその子孫が相続する土地であることを教えました。（当時カナンには、異教のカナン人が住んでいました。）アブラムはすぐその場所に、神を礼拝する祭壇を作りました。アブラムは自分に現れてくれた神に感謝せずにはいられなかったのでしょう。その後、アブラムはベテルの東にある山のほうに移り、初めてのテントの家を建てました。アブラムはそこでも、神のために祭壇を作りました。そして、主の御名によって祈りをささげたのです。

❑結論　神は約束を必ず守ってくださるお方です。アブラムはその神に心から感謝をして祭壇を作り、これからも神を信じて従いますとお祈りをして礼拝をささげたのです。

暗唱聖句を読み上げます

❑適用（聞き手にもっとも相応しい適用が与えら得るように祈りましょう。）

1）神様は、君にも素晴らしい計画と祝福を用意しています。ですから、神様が「行きなさい」「しなさい」と言われたら、それに従ってみましょう。例えば「両親に従いなさい」「相手を赦しなさい」というみことばも、それに従う結果（行き先）がはっきりわからないかも知れません。しかし、神さまはあなたを祝福するために、そう言っているのだと、信頼して従いましょう。結果が見えてから従うのではなく、わからなくても従うのが信仰です。信じて従いますと心できめる時、神様は素晴らしいことをしてくださるのです。

2）皆の中に聖書に書いてあることが「難しい、無理、できない」とあきらめている人はいませんか。確かに、自分の力だけでやろうと思うと、無理かもしれませんね。でも、アブラムを祝福して助けてくださったように、神様は必ず君を助けてくださいます。まず君が難しいと思うことを素直に神様に祈ろう。そして、助けてくださいと祈りましょう。

3）君が今日、神様を信じて従う決心したことは素晴らしいことです。何故ならアブラムの決心が私たちへの祝福になったように、あなたの決心も神様は喜んでくださり祝福してくださるからです。君の祝福される姿を他の人が見るとき、私も祝福されたい、お祈りしたい、神様に従おうと、神様を信じたいと思うようになるからです。君が決心して祝福される時、周りの人も祝福されるのですよ。

教　師　ノ　―　ト

週課	第一年　第一〇課　第二週
単元	創世記・3
テーマ	励まし助けてくださる神様
タイトル	神さまの約束
テキスト	創世記 15:1-6、17:1-8、18:1-15
参照箇所	
暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい） 創世記 17:1	
AG 日曜学校教案参照箇所	

メモ(情報・例話など)

先週のお話しに続き、今週もアブラムのお話です。ここでは、信じて祈り続けることの大切さを教えます。ただし忍耐して祈り続けることを言うために、ただ我慢することだけを強調しすぎないように気をつけましょう。むしろ神は信じられなくなりそうだったアブラハムを助け励ましてくださったことを強調しましょう。そして、祈りは（自分たちの思い以上の答えで）必ず答えられることを教えましょう。子ども達の心に、祈りの素晴らしさと希望を伝えられるように、まず教師がしっかりと祈り備えて聖霊に導いていただきましょう。

❑導入

今回は「励まし助けてくださる神様」ということがテーマになっています。神の励ましを語るために、まず教師そのものが、日ごろ自分が体験したことを語りましょう。教師の体験ほど、子ども達の興味を引くものはありません。もちろん、適応に使うこともできます。また、他の教師や身近な信徒の証しも良いでしょう。（ただし一言本人の許可をもらってください。）

励ましは、弱さの後に来ることを教師はしっかりと覚えておきましょう。

❑ポイント1　神様はアブラムに子孫が増えることを約束しました。(15:1-6)

「これらの出来事」とは、14章にあるように他民族との争いごとが多く、アブラムは毎日心配ごとが尽きなかったようです。神はそんなアブラムを、まず励まして、心配しなくても良い、私があなたを守り、沢山のものを与えると約束をしました。

するとアブラムは、「そんなことを言っても、神さまはどうせ何もしてくださらないのではありませんか。私の子孫を増やすとおっしゃったのに、まだ子ども（サライとの直系の子ども）も与えられず、私はもうこんなに年をとりました。」と、神に約束の子どもを求め、訴えました。(2-3 アブラムが、繰り返し与えられこの約束に、問い返し訴えたのはこれが初めてのこと。また、アブラムがエリエゼル（奴隷）の名前を出したのは神への皮肉ではなく、切実な必死の思いから。)

神はそんなアブラムに満天の星空を見せ、あなたの子ども達はこのようになると励ましました。そしてアブラムはそれを信じました。アブラムの偉大な信仰は、神の言葉を素直に信じたところです。神はその素直に信じたことを義といわれたのです。

✍「義と認められる」とは、神の前に正しいと認められ、問題なしと受け入れられることです。

☞ 子ども達の中には、満天の星空（星の数がどれだけ多いか）を見たことのない子もいると思います。神のなさることがいかにすごいか、イメージがわくように星空の写真などを見せると効果的です。

❑ポイント2　アブラムは神から新しい名前をもらいました。(17:1-8)

アブラムは99歳、サライ89歳になりました。しかし、この歳になってもまだ子どもがいませんでした。人間的には子どもを生むのは不可能な年齢になってしまいました。

そんなアブラムに神は現れ、彼に語りかけました。「私は何でもできる不可能のない神である。わたしは、あなたとの約束を必ず果たす。あなたはわたしに、忠実について来なさい。」（1）神はさらに、約束していた子孫繁栄の約束を繰り返しました。それは神が忘れることなく約束を守っているとアブラムを励ますためでした。

神は、約束が果たされる時が近づいてきていることを、具体的な形で表し始められました。それはアブラムの改名（改名という新しい契約）でした。アブラムは「多くの国民の父」（アブラハムの子孫という家系だけではなく、信仰を受け継ぐもの達が出ることを意味している。）という意味のアブラハムと言う新しい名前をもらいました。

✍ここでは二つのポイントがあると思って良いでしょう。一つは、私達が不可能と思う状況でも、神には不可能はない解決できないことはないということです。二つ目は改名です。神と約束をすることは、過去の自分と決別したのと同じことです。神を信じたことで、あなたは今までの人とは違うのだということを、アブラハムに名前を変えることで教えたのです。

✎16章は今回入っていませんが、アブラムの焦りからきたハガルとの失敗は、この後様々なトラブルの元となります。神に義と認められたからといって、人は決して完璧になるわけではないことが分かります。アブラムを超人的（特別すぎる）信仰者としないためにも教師は一読しておきましょう。

❑ポイント3　アブラハムの子供が生まれる時が近づいてきました。(18:1-15)

3人の旅人がアブラハムの所に来ました。アブラハムは、急いでテントから出て行き、ぜひ自分の所で休息を取るように願いました。アブラハムは3人の旅人を手厚くもてなしました。（パレスチナでは、旅人を手厚くもてなすことは普通のことでした。しかし、アブラハムの2－4節の言葉から、彼は直感的に神様の使いであることが分かったようです。） その中の一人が、来年の今頃サラが赤ちゃんを産むことをアブラハムとサラに伝えました。サラはその知らせを聞いて、「こんな年寄りに、赤ちゃんが生めるなんて、そんなことありえるはずがない。」と心の中で笑ってしまいました。神がその笑いを見逃すはずがありませんでした。すぐに、何故疑うのか（笑うのか）と言われました。サラは必死で笑いませんと打ち消しました。そんなサラに神は、疑わないで信じなさい、神にできないことはない、必ず生まれると約束してくださいました。

✍ここで教えられることは、まず神の方から私達の所に来てくださるということです。しかし、私達の方でも来て下さる神様を、心から歓迎することが大切であることを教えられます。

✎アブラハムのもてなし方は、テント生活者（遊牧民）としては、相当なもてなし方だと思われます。メッセンジャーはさらっと言わないで、表現をつけて体でそのご馳走の素晴らしさを表すとよいでしょう。

❑結論　神はアブラハムが信じられるように、また信じ続けられるように、何回も励まし神との約束を思い出させ助けてくださいました。それと同じように私達にも神は、励ましと助けを必ず与えてくださるのです。　*暗唱聖句を読み上げます*

❑適用（例話）

1）あなたはお祈りしても、神様がすぐに結果を出してくださらないとき、サラのように（笑ってしまって）途中であきらめてやめていませんか？不安になったり心配になったりした時、アブラハムのように、正直に自分の気持ちを神様に祈りましょう。「神様どうしてですか！」、不安なら不安、苦しいなら苦しいと。神様は何度もアブラハムを励まし、助けてくださいました。同じように、あなたの正直な祈りにも答えてくださいます。正直に祈れば祈るほどアブラハムと同じように、あなたも神様の約束が本当だと心から信じられるようにしてもらえます。だから今日からあなたも、正直な心の思いを神様にお伝えしましょう。

2）皆、ドラえもんのノビタを知ってますか。彼は毎週ドラえもんのポケットから、良い物を出してもらってます。でも必ず調子に乗って失敗するんだよね。しかも毎週必ず失敗します。本当にノビタって成長しないよね。実は僕達も彼にそっくりな所があります。毎週神様のことを教えてもらっても疑って失敗して、また教えてもらわないと分からない、信じられない。何か似ているでしょう。でも、ドラえもんと僕達の神様はかなり違うよ。ドラえもんはノビタを変えることはできないよね。神様は違います。神様は僕達を成長させることができます。そんな僕達の神様に正直な気持ちで、いつも信じることができるように祈りましょう。

教　師　ノ　──　ト

週課	第一年　第一〇課　第三週
単元	創世記・3
テーマ	罪から救い出してくださる神様
タイトル	ソドムから逃がしてもらうロト
テキスト	創世記 19:1-29
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
ローマ 6:23

AG 日曜学校教案参照箇所
小下 2 巻 1 題 10 課

メモ(情報・例話など)

今週は、アブラハムの甥ロトを通して、神・罪・救いを伝えます。この箇所での強調点は二つあります。第1ポイントは、罪の恐ろしさと、罪に近づくことと、その中に留まることの恐ろしさを伝えましょう。子ども達は罪の恐ろしさを分かっていません。また、何が罪であるかも分かっていません。罪には必ず痛い代償があることをしっかりと強調して、罪に誘う人や、罪から離れることこそが、神の御心であることをしっかりと教えましょう。しかし、強調するあまり不安と恐ろしさだけが残らないようにする必要もあります。そのため、第2のポイントがもっとも大切になります。それは罪からの救いです。神は罪から離れて悔い改めるなら、必ず赦してくださるお方であることを伝えましょう。子ども達が悔い改め、主イエスを自分の救い主として心に迎えられる決心ができるように、メッセンジャーはしっかりと聖霊の導きを祈りましょう。

❑導入

興味を起こす質問をしましょう。

今日は、アブラムの甥ロトの話です。甥って知ってますか？（甥を説明しましょう）。ロトさんがソドムの町に住んでいました。

❑ポイント1　神様の前に罪を犯し続けてきたソドムの町。(1-9)

アブラハムの甥ロトはソドムに住んでいました。（彼は、もともとソドムの外に天幕を張っていましたが、次第に町の中に引っ越すようになったようです（13:11-12）。見た目に経済的に安定していて、繁栄している様に見えた所にひかれたのでしょう。しかし、アブラハムと暮らしていたロトにとって、ソドムの住人になり切る事はできなかったようです。何故なら、ソドムは完全に神に敵対する人々の町だったからです（13:13）。結果的に彼は、どっちつかずの中途半端な立場になってしまったようです。ロトは罪に悩んでいました。アブラハムと一緒にいた時は、神中心の生活になっていたはずです。またアブラハムを通して、多くの神の恵みをロトは体験したはずです。）

ロトは御使いが町に来るとすぐにわかり、自分の家に招きいれました。しかし、その夜、大変なことが起こりました。町の住人たち（町中の隅々から、老若問わず）集まって、ロトの家を取り囲みました。捕まえてひどいこと乱暴（性的暴行）をしようとしていたのです。いかにソドムの町が霊的・精神的に荒廃していたかが分かります。（彼らはその二人が神の御使いだなどとはまったく考えていません。）

✍旅人を迎え入れた事は、アブラハムと同じでロトの良い面の現れでしょう。しかしその反面、娘達を暴徒に差し出そうとしたり（19:8）、ソドムの住民を兄弟達と呼びました(19:7)。また、娘達をソドムの住民に嫁がせようなど、ソドムの悪い罪の影響を受けていたことが分かります。このところからも、罪の中に入れば、人は誰であろうと（クリスチャンであろうと）悪い影響を確実に受けることが分かります。

✎神様を信じていても、教会から離れてしまうと私達もロトと同じになってしまうことを伝えましょう。

✍カナンは性的罪の大きい土地でした。ソドムはその中でも最悪の町で、同性愛者と暴力の支配する町でした（19:5・9）。ロトを受け入れていたのは、以前アブラハムに、ソドムの町が助けられたことがあったためと思われます。（創世記14章）

❑ポイント2　救いの約束と最後の警告。(10-22)

ロトは必死でやめるように説得しました。しかし逆に、町の人たちにひどい目にあわされそうになります。御使いは人々に目つぶしをくらわし、ロトを助け出しました。

御使いはロトとその家族だけは、罪の罰から救おうとしてくださいました。しかし、ロトは直ぐにこの導きに応答できませんでした。たぶん、多くの財産や家を持っていた彼らは、それを置き去りにするが惜しかったのでしょう。ソドムから出るのをためらっているロトの家族を、御使いは強制的に外に連れ出しました。

御使いは、彼らに振り返らず、命がけで逃げなさいといいました。しかし、ロトは、遠くまでは逃げられないと訴えました。御使いは、彼の願いのとおりに近くの町に逃げて助かるようにしてくださいました。

✍滅びの兆候が人の目には判断できにくいことが、ロトのためらいからわかります。主の日は盗人のように来ると第一テサロニケ5：2－3にあるとおりです。また、ロトの家族が救われたのは、彼の信仰の故ではなく、神様の哀れみ（19：16）とアブラハムのとりなし（18：22－33）のおかげなのです。

✎罪から離れるほうが良いと、誰しもが思うものです。しかし、ロトのように逃げ切れないと、すでにあきらめてしまっている子ども達もいるかもしれません。メッセージの中でそのような子ども達に、ロトを助けたように神は必ず助けてくださることを強調しましょう。

❑ポイント3　神様に従う人は救われます。(23-29)

ロト達が御使いと約束した町につくと同時に、神の裁きが始まりました。「罪の支払う報酬は死です。」ローマ6：23とあるように、それは死の裁きでした。神の罪に対する徹底的な裁きが描かれています。神に従ったロト達以外に、ソドムで助かったものはいませんでした。 しかし、油断は禁物です。罪の罠は絶えず私たちの心に、誘惑を仕掛けてきます。ロトの妻はその誘惑にかかり、神との約束を守れませんでした。それは、エバの犯した罪とよく似ています。ロトの妻は、塩の柱となってしまいました。ロトと娘達は救われました。

❑結論：　神は徹底的に、罪を嫌われるお方です。私たちも徹底的に、罪から離れる決心をする必要があります。しかし、ロトの妻のようになるのではと、恐れが来るかもしれません。だからこそ、自分の力で離れる努力をしないで、ロトのように神に助けをいただいて、罪から離して頂くことが大切なのです。神は助けを求めるものを必ず助けてくださいます。　　*暗唱聖句を読み上げます*

❑適用

ロトが罪の町ソドムから自分の力では逃げられなかったように、私達も、自分の力では罪に勝てません。イエス様だけが罪に勝ってくださったお方です。神様は私達が罪に弱いことをよく分かっています。神様は必ず私たちを罪から助け出してくださいます。きみやお友達がしていることが罪だとわかったら、そこにいてはいけないよ。振り返らずに、きっぱりと罪から離れましょう。さそわれても、いやだといいましょう。罪につかまらないように負けないように、毎日神様に守ってくださいとお祈りしましょう。

教　師　ノ　―　ト

週課	第一年　第一〇課　第四週
単元	創世記・3
テーマ	従順
タイトル	従いきったアブラハム
テキスト	創世記 22:1-19
参照箇所	ピリピ 2:8、Iコリント 10:13、ヘブル 11:17-19、12:5-11、ヤコブ 1:2-5

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　創世記 22:14

AG 日曜学校教案参照箇所

❑導入

　興味を起こす質問をしましょう

　あなたにとって宝物ってなんですか？それを神様にささげなさいと言われたらどう思いますか？今日は神様がアブラハムに宝物をささげなさいとおっしゃったお話です。

❑ポイント1　神様はアブラハムに試練を与えました。（22：1～5）

　1節に「神はアブラハムを試練に会わせられた。」とあることから、これは神が与えた試練であることがわかります。神様がアブラハムに与えた試練は、尋常なものではありませんでした。アブラハムが25年間も祈り続け、待ち続けて、ようやく与えられた唯一の子どもイサクを、全焼の生け贄として捧げる命令でした。（アブラハムの心の葛藤を、子どもたちと一緒に想像しながら話しましょう。）

　驚くべきことに、アブラハムは翌朝には神が指定されたモリヤの山に行く準備をしました。そして、イサクと二人の若者を連れて出発してしまったのです。神が指定されたモリヤの山までは、三日間の路程でした。その間、アブラハムがどのような気持ちで歩んだかは定かではありません。ただ、決して楽で平安な旅ではなかったはずです。モリヤの山の直前で、アブラハムは若者二人を残しイサクと二人だけで山に向かいました。

✎全焼の生け贄は、「神様に完全に従います」という献身への意味がありました。そのことからも、神がアブラハムに「私を信頼するか？」と問いかけていることがわかる。

❑ポイント2　アブラハムは神様の命令に従いました。（3-9）

　アブラハムがイサクに薪を背負わせたのは、彼がすでに100歳を超える老人であったからだと考えられます。自分の息子を生け贄にする薪を、背負わせる彼の気持ちはどのようなものであったでしょうか。（アブラハムの気持ちを子どもたちと一緒に想像しながら話を進めましょう。） 薪を背負わせられたイサクは、生け贄となる羊がいないことを不思議に思っていたようです。父親のアブラハムに「ささげものはどこですか？」とイサクは聞きました。アブラハムの答えはただ神に信頼せよと言う返事でした。

　目的地に着くと、アブラハムは祭壇を築きあげました。（この時もイサクが手伝っているはずです。）その後、アブラハムはイサクを縛り上げます。そして、薪を引いた祭壇の上にイサクをのせました。不思議なことに、イサクはこの場面でまったく抵抗を見せていません。まるで、初めから分かっていたように素直に従っています。このところからいかにイサクが、父アブラハムと神を信頼していたかが分かります。父の信仰をイサクは、しっかりと受け継いでいたようです。

✎この所だけで、アブラハムの気持ちを想像すると、単なる憶測で終わってしまいます。ヘブル11：17～19を読んで参考にしましょう。彼の神への信仰姿勢がよく分かります。

❑**ポイント3　神様は命令に従った二人を祝福してくださいました。(10-19)**

アブラハムの決意は固まっていたようです。私達からはありえないと思うような行動に彼は出ます。自分の息子イサクに刀を突きたてようとしました。その時、神の御使いが止めに入りました。「わたしにささげた。」と言う12節の言葉やヘブルの11：17～19から、アブラハムが神を信頼しイサクを自分の持ち物としないで、神に委ねて手放していたことが分かります。神に信頼するとはどういうことかがこのところから学べます。

この試練を乗り越えさせてくださったのは、神ご自身でした。アブラハムは自分の信仰を表す（信じる）だけですむように、神ご自身が捧げものを用意されました。やぶに角を引っ掛けた一頭の雄羊が用意されたのです。 アブラハムはその場所をアドナイ・イルエ「主の山の上には備えがある」と呼ぶようにしました。 神は今日も変わることなく、私達のために一番良い方法や物を用意してくださっているのです。その後神は、再びアブラハムを祝福されました。（15～18）神は「私は自分にかけて誓う」と、約束したことは必ず守り果たすことを宣言されました。しかし、そこには私達の知るべき大切な姿勢もあります。それは18節にあるように、「あなたが私の声に聞き従ったからである」と神に信頼することを、神ご自身に学ばせていただくことです。

✎ポイント3を考えるにあたりメッセンジャーは、ピリピ2：8からイエスの姿勢や、Ⅰコリント10：13から神様の試練に対する配慮をしっかりと読んで心得ておきましょう。

❑**結論：　神様の命令は厳しくても従おうとする人を、神様は祝福します。**

暗唱聖句を読み上げます

❑**適用**

アブラハムが一番大切な独り子イサクを捧げました。父なる神様も私たちのために独り子なるイエス様を捧げてくださいました。それほどまで私たちは愛されています。この愛の神様に、私たちもどんな試練があっても従っていきましょう。